

令和7年度事業計画書

1. 保健管理研究集会事業

(1) 全国研究集会開催事業

全国大学保健管理研究集会は、全国の国・公・私立大学における保健管理の研究者及び実務担当者が一堂に会し、各大学に於て取り組んでいる学生・教職員の保健管理に関する種々の課題につき、その調査・研究成果を発表・討論すると共に有識者から各種傷病や健康管理基盤等に関し時宜を得た講演を受講し、シンポジウムに於て議論に参加したりすることにより、大学に於ける学生・教職員等の保健管理の一層の充実、公衆衛生の向上並びに学術研究の発展に寄与する為に開催している。

令和7年度の第63回全国大学保健管理研究集会は、福島大学を当番校とし令和7年9月10日（水）・11日（木）の両日、けんしん郡山文化センターに於いて開催する。

令和6年度の第62回全国大学保健管理研究集会は、神戸大学を当番校とし令和6年10月に神戸国際会議場で『時代の変化を意識した大学保健管理、ダイバーシティ（多様性）に注目して』をテーマに開催した。

令和7年度テーマは『未来を切りひらく大学保健管理～これからの役割と課題～』を予定しており、詳細は決定次第、当協会のウェブサイト等にて案内する。

(2) 地方部会研究集会開催事業

当協会では、北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国四国及び九州の各地域に地方部会を設け、地方部会ごとに当該地域の大学等の保健管理施設に勤務する実務担当者等の知的交流及び研究活動の活性化を図り、大学に於ける保健管理の充実に努めている。

各地方部会では、実務担当者等が日頃から取り組んでいる保健管理に関する課題等を持ち寄り、その成果を発表・討論する研究集会を開催するほか、地域の特性に応じたテーマについて職種毎の研究会・研修会を開催し、保健管理に関する知識の啓発や技術の向上並びに研究の推進等に取り組んでいる。

令和6年は アフターコロナが定着し、全国大学保健管理研究集会と同様、各地方部会でも、対面での研究集会や職種毎の研究会・研修会の開催が増えた。

令和7年度は、更に多くで、対面での開催を予定している。

2. 保健管理業務情報事業

(1) 機関誌発行事業

当協会では、機関誌として、全国大学保健管理研究集会の報告書ならびに大学に於ける保健管理に関する調査研究活動の成果である研究論文集を、それぞれ、年一回刊行している。

令和6年度は、機関誌編集委員会において設定したテーマ“LGBTQの正しい理解を深める”の特集記事及び学術論文を掲載した「CAMPUS HEALTH 61 (2)」の電子版を、12月に弊協会のホームページにアップロードした。また、第62回全国大学保健管理研究集会の報告書である「CAMPUS HEALTH 62 (1)」は、年度末(3月)の発行を予定している。

令和7年度も「CAMPUS HEALTH」(1)及び(2)の発行を予定しており、「CAMPUS HEALTH 62 (2)」の特集は“震災時のメンタルヘルス対策”をテーマに設定した。

更に当協会の公益性に鑑み、国立研究開発法人科学技術振興(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」において「CAMPUS HEALTH」の一般公開を進めており、現在までに「CAMPUS HEALTH 56 (2)」～「CAMPUS HEALTH 60 (2)」を公開している。

令和7年度は「CAMPUS HEALTH 61 (2)」の一般公開を予定する。

(2) 情報活用・交換事業

令和2年度から文部科学省の要請を受け、毎年、学生の死亡実態調査を一般社団法人国立大学保健管理施設協議会と弊協会「学生調査実施ワーキンググループ」が共同して行なってきたおり、令和6年度は、令和7年1月に「令和5年度大学における死亡学生実態調査」報告書として文部科学省ホームページから公開された。

更に、従来からの感染症「例えば、風疹・インフルエンザ等」やメンタルヘルス「例えば、うつ病や自殺」などの保健管理上の事案に対して、大学として時宜を得た施策が求められるが、個々の大学の保健管理施設だけでは十分な対応が難しい。

そこで、弊協会では、大学の保健管理に関する各種の情報や資料の収集を行ないこれらを各大学に提供して、迅速かつ適切に対応できるような取り組みを継続して行なっている。令和7年度も大学の保健管理に関する最新情報や基盤となる資料を弊協会の通信網を介し一斉配信、ホームページに掲載する等、広く提供して行く。

令和2年度のヘルシーキャンパス宣言を踏まえ、ヘルシーキャンパス運動を共有するため、令和3年度に弊協会「ヘルシーキャンパス運営委員会」を立ち上げた。

ヘルシーキャンパス運営委員会では、ヘルシーキャンパスフォーラムやウォーキングチャレンジを通じて全国の大学に呼びかけ、ヘルシーキャンパスの実現を進めている。令和6年10月に開催した第62回全国大学保健管理研究集会の学生シンポジウムでは「学生参加で実現するヘルシーキャンパス」をテーマに取り上げ、有益な意見交換を行なった。現在、10の大学・団体がヘルシーキャンパス宣言を行っているが、令和7年度も更なる参加で、ヘルシーキャンパスの広がりを目指している。

協会が行った大学のHPVキャッチアップ接種に関するアンケート結果は、令和6年11月にメディアに取り上げられ、学生の選択肢を広げる情報提供の一つになった。

また「保健看護委員会」では、大学保健管理者向けの参考文献が少ないとの問題意識から「看護職のための大学保健業務マニュアルー学生健康支援のためにー」を作成し、令和6年12月にホームページで公開した。

更に、当該委員会では、大学の保健管理施設での勤務経験の無い看護職のために毎年、情報をアップデートし「看護職初任者講習会」の動画配信も行っている。

令和6年10月に「大学における心停止発生状況の調査」を行ない 予防につなげることを目的に「大学における心停止発生状況調査のためのワーキンググループ」を立ち上げた（「倫理審査委員会」で承認し、厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システムに登録済み）

弊協会では、他にも「ウェブ情報委員会」や「国際連携委員会」等で、積極的な活動を行ない、その内容を発信しており、今後もその取り組みを継続していく。